

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 1番

通告者 学校名 大津町立大津中学校 椎葉 凜花 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 交通安全について	今年度、自転車に関する法改正が行われました。ルールが整備された一方で、大津町には交通安全や道路整備の点で課題があると私たちは感じました。そこで大津中学校からはその課題解決のため、お尋ねと提案をさせていただきます。 私たちが毎日利用している通学路では、自転車の並列走行や交差点での飛び出し、一時不停止などが見られ、地域の方々から安全面を心配する声が多く寄せられています。私たち生徒も交通ルールを守り、安全運転を心掛けていく必要があります。そのため、交通安全担当の先生による指導や生活委員会から日々呼びかけを行っています。まずは私たち中学生が、自分の身を守り、周囲の人たちの安全に配慮した行動をできるようにしていきます。 しかし、安全な通学路をつくるためには、生徒一人一人の意識だけでなく、学校・家庭・地域・行政が連携しながら交通安全に取り組んでいくことも大切だと考えます。 そこで私は、子どもたちが交通ルールを守り、安心して通学できるようにするため、町として学校や地域とどのように連携し、交通安全教育や啓発活動を進めていく考えなのかお尋ねします。	町長
2 道路整備について	一方で道幅が狭く、自動車とすれ違う際に危険を感じたり、舗装が傷んでいて自転車が走りにくかったりする場所があります。また、見通しの悪い交差点では、車や自転車、お互いの存在に気付きにくく、事故につながる危険性もあります。 そこで私は、大津高校前の道路や大津中央公園周辺の道路の道幅を広げること、死角の多い交差点のカーブミラーを増設すること、傷んだ道路の舗装を整備することを提案します。道路環境が改善されれば、生徒だけでなく、高齢者や子	町長

	ども、地域住民の皆さんも安心して通行できるようになります。 安全な道路は、町に住むすべての人の安心につながる大切な財産です。未来を担う子どもたちが安心して通学できる町を目指し、ぜひ道路環境の整備を進めていただきたいと思います。	
--	---	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 2番

通告者 学校名 熊本県立大津高等学校 関 悠李 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 放課後の居場所づくりと体験活動のさらなる充実についての提言	大津高等学校からは以下の2点について質問します。 1つ目は「放課後の居場所づくりと体験活動のさらなる充実」について、2つ目は「大津町の介護支援及び相談体制」についてです。 まず1つ目「放課後の居場所づくりと体験活動のさらなる充実」についてです。 大津町では「大津町子ども計画」に基づき、放課後児童クラブや学童スポーツクラブ等を通じた居場所づくりや育成に取り組んでいます。現在の取組を発展させ、高学年も利用しやすい居場所の充実や、地域団体・企業等と連携した多様な体験を無料または低料金で定期開催する環境整備を提案します。家庭の経済状況や地域環境による体験格差は、学習意欲や社会性、自己肯定感の育成に影響を与えていると言われています。 しかし、子どもたちがイベントを認知していなければ意味がありません。子どもの認知を進めるためには学校や保育園・幼稚園など子どもの目に触れる場所に情報を掲示し、子どもから親へ伝えて参加を促す仕組みが大切です。参加者を増やして実績を作りつつ、無料・低料金を維持することで、家庭の経済状況に左右されず多くの児童が参加できるようになります。 以上の実現により、放課後の安心な環境が充実し、体験を通じて子どもたちの学びや興味・関心が広がることが期待されます。	町長
2 大津町の介護支援及び相談体制の確認と提案	次に「大津町の介護支援及び相談体制」についてです。 近年、仕事や子育てをしながら親の介護を担う「ビジネスケアラー」が増加しています。高齢化が進む中、介護は多くの住民が直面する可能性のある課題ですが、制度や相談先を知る機会は十分とは言えません。そこで2点提案します。1点目は介護ミニ講座を開催し、介護保険制度や利用できるサービス、相	町長

	談窓口をわかりやすく紹介することです。2点目は LINE や Zoom などを利用したオンライン相談体制の整備です。時間や場所を問わず相談しやすい環境を整えることで、早期相談や介護者・家族の負担軽減につながると思います。 これらの提案について町の考えを伺うとともに、介護への理解促進や相談体制の充実に向け、今後どのような施策を検討されているのかお伺いします。	
--	---	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 3番

通告者 学校名 熊本県立翔陽高等学校 岩元 悠莉 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 スポーツの森までの新しい交通手段の確保	現在、本校の弓道部の生徒は、毎日学校からスポーツの森の弓道場へ移動し、活動を行っています。しかしながら、部活動でスポーツの森の施設を使いたいが、そこまでの移動手段が確保できず、断念した友人がいます。小中学生の部活動の社会体育への移行も進んでおり、スポーツの森の施設を使う団体も増えてくると思います。しかし、活動の時間帯に保護者が送迎できない場合、断念しなければいけない家庭や子どもも出てくるかもしれません。 そこで、肥後大津駅からスポーツの森までの新しい交通手段の設置を提案します。具体的な案として、①シャトルバスの設置、②現在計画されている空港までの鉄道において、中間駅の設置を考えています。シャトルバスを運行するに当たり、バスの設置に関する費用増、運行会社の調整等のデメリットも想定されますが、小中高生の利用を考えれば、送迎できない保護者からの安心を得ることができ、使用者の増加、施設収入の確保が予想されます。また、シャトルバスの使用料からの収入も得ることができます。更には、スポーツの森で行うイベントの幅も広がるのではないかと考え、この案を提案させていただきます。	町長
2 大津町の特産品(お土産)の高校生徒の共同開発	大津町について周囲に聞いてみたところ、町のことについてよく知らないという声が多く聞かれました。この現状から、大津町の魅力が十分に外へ伝わっていないと感じ、非常にもったいないと思います。現在、大津町には『銅銭糖』や特産のさつまいもを使ったお菓子がありますが、これらに続く「これぞ大津！」と言えるものをつくり、大津町について知ってもらえるきっかけにできるのではないのでしょうか。 農業系列食品製造科や家庭系列が商品開発のアイデアを出し、商業系列が販売や企画を提案するなど、各系列の学びを活かした多角的なアプローチが可能です。この活動は、町を知る新たなきっかけになると考えます。また、食品だけでなく、農業系列園芸造園科でつつじの花を活用するなど、地域で当たり前とされ	町長

3 堂坂の安全対策について	ているものに新しい付加価値をつけることで、大津町の新たな可能性を見出せるのではないのでしょうか。 肥後大津駅から、翔陽高校へ向かう通学路として、堂坂(通称翔陽坂)を使用しています。近年、周辺の交通量の増加の影響から、この場所においても、朝登校時の交通量が増加しています。堂坂は、本校生徒だけではなく、室小学校や大津北中学校の生徒の通学路です。ここは、路側帯も狭く、自動車の離合の際に、路側帯をふさいでしまうため、自動車と歩行者の接触事故が起きやすい環境にあります。さらに、下りの車のスピードが速いため、より危険度は高い状況です。そこで、道路をスクールゾーン化することで事故のリスクを減らすことを提案します。スクールゾーン化の具体的な案として、①小中高生の通学時間の交通制限、もしくは、②歩道のカラー舗装整備や安全を呼びかける看板等の設置ができないかと考えています。 堂坂の安全対策をきっかけに、他校周辺の交通状況を見直し、同様の対策をとることで、大津町に住む子供をはじめ、住人の方が安心して生活できる環境になると考えます。	町長
----------------------	--	-----------

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 4番

通告者 学校名 熊本県立大津支援学校 野元 瑞稀 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 ゴミ問題について	私たち大津支援学校の生徒は、保護者の送迎や通学バスなどで登校したり、電車やバス、自転車などを利用して自力で登校したりしています。今回、自力で通学している生徒たちから、2つの意見があがりました。 1つ目は、通学路におけるゴミの問題についてです。 肥後大津駅から学校までの通学路では、歩道を歩いていると、ゴミ袋が破れて中身が散らばっていたり、ポイ捨てされたりしているゴミをよく見かけます。歩行者が避けて通らなければならないだけでなく、自転車や車椅子を利用されている方にとっても大変危険です。また、異臭がしたり、不快な気持ちになったりもします。 誰もが安全で快適に道路を利用するためには、一人ひとりがマナーを守ることが不可欠ですが、町としてどのように実態を把握し、啓発や回収などの対策を行っていくお考えでしょうか。	町長
2 歩道の安全と綺麗な環境づくり	2つ目は、歩道の安全性についてです。 私たちが利用する歩道には、地面のデコボコが多く、雨が降るとすぐに大きな水たまりができてしまう場所が数多くあります。地面がデコボコしていると、つまりいて転倒する危険があるほか、雨の日には自転車が滑ったり、車からの泥はねで服や靴が濡れてしまったりすることがあります。さらに、草が生い茂って道をふさいでいる場所もあり、通りにくく困ることがあります。 加えて、今後、学校前の道路が4車線化されると聞いていますが、歩道の狭さや信号機の設置状況などについて、生徒の間でも不安の声があがっています。 誰もが安心して歩ける町にするために、町として、歩道の舗装や草刈りなどの整備をどのように進めていかれるのかをお聞かせください。また、4車線化に伴う歩道の安全対策や具体的な見通しについても、あわせてお答えいただけますでしょうか。	町長

	私たちが毎日安心して通学でき、子どもから高齢者まで誰もが安全に過ごせる「きれいな歩道づくり」に向けた、町のお考えをお聞かせください。	
--	--	--

JLD議会 一般質問通告書

通告順番 5 番

通告者 学校名 大津町立大津北中学校 大谷 あさひ 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 給食費の補助について	物価高騰の影響で、現在の給食費では牛肉や県産の魚などの豊かな食材を献立に使うことが難しくなっています。町のアンケートでは、保護者の 53%が「高くなっても多様な食材を望む」、69%が「月 500 円程度の値上げ」を容認する一方、値上げ反対派の 77%が「家計が厳しい」というジレンマを抱えています。 そこで、保護者の負担は据え置き、町がメニュー向上のための 500 円分を負担する「一部補助」を、まずは食べる量が増える中学生からスタートすることを提案します。 これは、10 年後の大津町を支える私たちへの「未来への投資」です。「子どもの食を大切にする町」だと分かれば、子育て世帯ももっと増えるはずです。町の温かいサポートを受けて育った子どもたちが、10 年後、20 年後の大津町をさらに明るく、住みよい町にしていきます。 町にサポートを求めるだけでなく、私たちも自発的な工夫で豊かな給食を守る責任があります。現在、北中学校では白いご飯が残りやすい現状があり、おかずとのバランスなどが課題です。 そこで、私たちは「ふりかけ」の回数を増やす要望を行うとともに、配膳直後に各自で量を調節する「量調整タイム」や、クラスで楽しく競い合う「完食チャレンジ」を実践し、自ら残菜を減らすアクションを徹底していきます。	教育長
2 学校や公共施設への冷暖房の設置についての要望	地球温暖化による猛暑の中、避難所となる公共施設や体育館へのエアコン設置は命に関わる課題です。現在、中学校の体育館には冷暖房がなく、夏の部活動は「午前中だけ」に制限され、4 つの部活が時間を譲り合って練習しています。また剣道部では分厚い胴着の管理や熱中症の危険に耐えており、普段の体育の授業でも制汗剤や汗拭きシートが使えず、汗だくのまま次の授業を受けることへの	町長

	苦痛の声が上がっています。私たちは、日々の活動で体育館や特別教室への使用を制限せざるを得ない日々を送っています。日々の授業に笑顔で取り組み、仲間と全力で部活動に打ち込みたいと思っています。だからこそ、私たちは体育館や公共施設への冷暖房の設置を、今ここで切実に願っています。もし猛暑や厳冬期に災害が起きれば、避難してきた高齢者や子どもの命に関わります。費用面の課題はありますが、環境に優しく停電時にも動く「太陽光発電」や「蓄電池」をセットにした冷暖房の計画的設置を提案します。これは 10 年後の未来に向けた、誰もが安心して暮らせる街づくりのために必要な一歩です。	
--	--	--